

## 言論の自由　　のない「民主」党

民主党政権で実質的な権力を揮っているのは小沢一郎である。小沢個人も強面であるが、なにせ、取り巻きの腰巾着・すなわち小沢のおこぼれにあずかろうとしているのがうようよして、こいつらがうるさい。虎の威を借る狐のようなもの。そのため、もっとも「民主党」と言う名に相応しくない「言論の自由」がない。たとえば、表に出たものだけでさえ、副幹事長の生方某さんが小沢のカネの問題を非難すると、小沢の指示だったのだろうが、筆頭副幹事長なる役のナンタラゆうのが生方さんを罷免しようとする。さすがに世論の強い非難の下に曝されてしまったから、表面上は小沢が懐柔したような格好にした。またこの筆頭なんとかというのが、あまり切れそうな男ではないから、余計にその不手際が目立ってしまった。

(実はこのあたりの文章は5月中に書いてあったのだが、6月にはいってから一種の**政変**があったため、遅れてしまった。)

大阪府の橋下が新党を結成しようすると民主党の幹部が「殴られたら殴り返す」と言い、橋下は「脅威を感じた」と言った。(このあたり弁護士だから額面どおりには受け取れないが、)言った幹部の名前はだせませんが、と辛坊次郎さんがTVで語る。横にいた女性アナウンサーが即座に「平野**官房長官**！」・・・樽床某は、名前を売るために総裁選に出馬した。大阪出身というのもしらなかった。こいつも同じく橋下に対して恫喝めいたことをのたまわったらしい。1年生議員は、まあ陣笠議員なのだが議決のときに賛成票を投じるか反対にまわるかが仕事だという。・・・そういうのにぴったりの人もいるだろうが、何事かを為そうとして議員になった人もいるだろう。そういう志ある人の芽をつんできたのが小沢だという。

これでは「**自由な討議**」など及びもつかないことで、これでは鳩山のノ一天気さと小沢のカネの話で7月の参院選での惨敗が目に見えている。まさに独裁政治・専制政治である。(4月)

鳩山は鳩山で、Obama 大統領に向かって“Trust me”などと戯けたことを言うものだから米国高官からまったく信用されなくなってしまい、日本の安全保障にも支障を来たす破目に陥った。当たり前前で、外交の場で「オレを信用してくれ」などというのは、こいつは信用ならんヤツだと警戒心を抱かしめるのに十分な言葉である。子供じゃあるまいし。

6 月、予定通りというか小生の予測どおりに鳩山が政権を投げ出した。在任中、唯一とでもいふべき英断で、さらに小沢を道連れに楽屋裏に引っ込んだから、無能な総理の一世一代の大仕事であった。・・・小村寿太郎が日露戦争の前に米国大使であったとき、加藤高明夫妻が訪米し、さかんに夫婦で世界旅行を勧める。小村は、「みともないツラのカカアを連れて世界中に恥をかいてまわるのは御免蒙る」というような意味のことを言ってあてつけたらしいが、現代も同じで、・・・よくまあ辞めてくれたものである。金星まで行かんですんだからよかったじゃないですか。

次の菅総理が露骨な小沢はずしをしたものだから、例の金魚のナントカの連中が怒り狂ったらしく「小沢に正面切って喧嘩を売る気か!」・・・まるっきり極道みたいなものやな。

・・・鳩山さん、心配するな。この一事だけで在任中の失政は帳消しになって、アンタは極楽往生間違いなしや。菅さんは以前に女のことで失敗している。ちゃんと学習していればいいのだが。

こうなると参議院選挙の趨勢がわからなくなり、**結局おなじこと**やいうことに国民が気づかない限り、民主党の時代がもう少し続くことになる。アーア。

2010.06.08.